

大分市立松岡小学校 学力向上プラン 1（8月）

学校教育 目標	ふるさとを愛し、たくましく生きる松岡っ子の育成
育成を目指す 資質・能力	・生きた知識、技能を身に付けた松岡っ子の育成 ・自ら考え、判断し、行動できる松岡っ子の育成 ・平和を愛し、ともに向上しようと挑戦する松岡っ子の育成

	学力状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【国語】・【算数】文章の意図をつかむ。 【国語】・語彙を増やす、構成を考えて指定された長さの文章を書く。 【国語】・文章の読解、段落相互の関係や情報と情報の関係を考える。 【算数】・算数で学んだことを使い、日常生活の問題を解決する。	学習状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・国語、算数への学習意欲や学びの実感。 ・読書量、質の向上。 ・生活体験と学習内容を結び付ける力。（応用力）
児童生徒の 課題	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・授業の中で、自分の考えを書く時間や発表する機会を保障したり、個に応じた指導や補充学習をしたりすることにより、基礎・基本の定着を図った。 ・単元末テストの結果、国語「知識・技能」については到達度が高い。 ・単元末テストの結果算数「思考・判断・表現」においては、到達度8割未満の学年が多い。 ・書くことを取り入れる授業改善を行ったところ、伝えたいことを書き表すことができる児童が増えてきているが、まだ、学年差、個人差が見られる。 ・大規模校の課題として、集団の中に埋もれてしまい、自ら考え行動する姿や、自己決定する力が不足している。	
指導の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・授業の見通しを黒板に位置付け、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を提示する。 ・学年で学習進度を揃えたり、教材を共有したりして統一した指導をしている。 ・「書くこと」領域における国語科の授業研究をすることで、書く力の育成を目指している。 ・主体的・対話的な学習活動を工夫する。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・ドリルや練習の仕方を揃え、基礎・基本を定着させる。 ・数年間の児童の実態を踏まえ、各学年で同じ系統の単元テストを選定し、比較・分析するための材料としている。 ・大東中学校区で作った「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容と質について、こどもに指導するとともに、保護者への啓発も 行っている。	

学力に関する達成指標
・1学期末に下位層児童(50%未満)の児童の人数と割合を把握し、手立てを考え、各学年ごとに決めた目標値を達成する。 ・児童アンケート『1日の授業の中で「分かった」「できた」と思うことがありますか』という設問に対してA評価の児童の割合80%以上 ・児童アンケート『宿題や自学に取り組んでいますか』という設問に対してA評価の児童の割合 85%以上

	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 相手意識や目的意識をもち、自ら学びに向かうこどもの育成 ～学ぶ楽しさを実感させる授業展開の工夫～	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈取組内容〉 互いの考えを深める問いの投げかけや学びの成果を実感するまとめ・振り返りをした授業展開	〈家庭・地域の取組内容〉 「家庭学習のすすめ」の徹底
	〈取組指標〉 様々な教科で計画的にペアやグループ活動を取り入れる。	〈家庭・地域の取組指標〉 毎日、中学校区で設定した学習時間でじっくり取り組める内容の宿題(国語・算数・音読)を出す。
	〈検証指標〉 児童アンケートにより「1日の授業で『分かった、できた』と思うことがある」と答える児童を80%以上にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 保護者アンケートにより「家庭学習の習慣が身に付いている」と肯定的に答える保護者を80%以上にする。
	〈取組内容〉 目的に合わせて表現する場の設定	
	〈取組指標〉 書く時間の確保や発表する(分かりやすく伝える)機会の保障を1日1回以上行う。	
【授業改善以外の学力向上の取組】 ・個別学習、補充学習の充実を図り、基礎・基本を定着させる。 ・デジタルドリル等、一人1台端末を使った宿題を出し、家庭学習の充実と情報機器の活用能力を育成する。 ・図書館を利用し読書量と語彙力の増加(新聞の活用) ・「自立した学習者」を目指し、学期末の家庭学習では「マイタイム宿題」に取り組ませる。 ・算数「思考・判断・表現」の苦手分野を把握し、苦手分野への指導の工夫を図る。 ・9年間を見通した系統的な指導を、大東中学校区が一体となって進めていく。		